

自然観察 NOW

野幌森林公園情報

2011.10.13 No.6

北海道ボランティア・レンジャー協議会

1. 野幌森林公園における自然観察会の歴史

野幌森林公園の観察会 (資料 北海道開拓記念館30周年記念誌)

		観察会名	
昭和48年	1973	講演・野幌の森林 館脇 操 北海道大学	
昭和50年	1975	見学会・秋の森林観察 斉藤新一郎 林試	
昭和51年	1976	観察会「秋の森林観察」 記念館	
昭和51年	1976	観察会「春の森林公園散歩」 斉藤新一郎	
昭和54年	1979	春の野外観察会 記念館	
昭和54年	1979	初夏の森林観察会	
昭和55年	1980	観察会「春の森林観察会」 記念館	
昭和55年	1980	観察会「秋の森林観察会」 公園事務所	(俵 浩三・野村悟郎)
昭和55年	1980	観察会「冬の森林観察会」 公園事務所	(野村悟郎)
昭和56年	1981	観察会「春の森林観察会」 公園事務所	(俵 浩三・野村悟郎)
昭和56年	1981	観察会「秋の森林観察会」 公園事務所	(俵 浩三・野村悟郎)
昭和56年	1981	観察会「冬の森林観察会」 公園事務所	(俵 浩三・野村悟郎)

野幌森林公園で行なわれた最初の観察会は、斉藤新一郎氏により1975年(昭和50年)に行なわれ、その後北海道開拓記念館や野幌森林公園事務所により春、夏、秋、冬の4回の観察会が行われるようになる。ボラレンが初めて野幌森林公園の観察会を行なったのは北海道ボランティア・レンジャー育成制度が始まった翌年の1987年(昭和62年)6月からである。本年度、セイヨウオオマルハナバチやオオハンゴンソウの防除を含めると12回の観察会が野幌森林公園で行われている。

2. 野幌森林公園の集団施設地区とは

公園区域の北西側にある道有地の一部は北海道立自然公園条例に基づく集団施設地区(記念施設地区)に指定されており、北海道野幌森林公園記念施設地区管理規則、北海道野幌森林公園記念施設地区管理規則運用方針、記念施設内商業用写真指導指針などの法律があり、野草刈や山菜の採取の禁止が記載されている。

今回の観察会コースの前半、自然ふれあい交流館までの地域はすべて記念施設地区(開拓の村、開拓記念館、記念塔、埋蔵文化財センター、自然ふれあい交流館がある範囲)になる。

また道立自然公園には特別地域第1、2、3種、普通地域などの区分けがあり、特別地域では木竹の採取の禁止、高山植物その他の植物で知事指定の植物の採取し又は損傷の禁止、という項目がある。野幌森林公園は特別地域第1種281ha、第2種926ha、第3種704ha、普通地域142haで全2,053haの内93%が特別区域に設定されている。

次回観察会のご案内(ボラレン主催)

平成23年11月3日(木・祭日) 10:00~14:30 「晩秋の森観察会志文別コース」

集合場所: 野幌森林公園 自然ふれあい交流館

参加費: 100円、飲料・昼食持参

3. 野幌森林公園の紅葉

10月2日、気温が下がって中山峠や高い山では雪が降った。紅葉は気温の低下に伴って、山から里へやってきて野幌森林公園でも紅葉が始まっている。樹木を見て歩いていると紅葉が早いのはサクラ、カラマツにまつわりついたツタウルシの紅葉、赤い果実が裂けたツリバナ、カツラなどの紅葉は早い。

また大きな葉のホオノキはまだらに枯れて茶色になり、いち早く落葉する。ハリギリやヤチダモも黄葉し、ヤナギの仲間ではドロノキがいち早く葉を落葉させる。シラカンバは徐々に黄色い葉へ紅葉し、まだら模様の樹木になってきれいな情景を展開する。

カエデ類の紅葉は徐々に始まり、野幌森林公園では10月末から11月初旬が見頃となる。

※秋に葉の色が変わるしくみ

葉を緑色に見せているのは、光合成を行う葉緑体の中にある色素・クロロフィルで、光が強くなると葉緑体が増えてこの色素も増えるので、夏には葉の緑がより色濃くなる。しかし冬が近づき、気温が低下すると同時に空気が乾燥し、葉から水分が蒸発しやすくなるのでこれを防ぐため樹木は枝と葉柄の間に離層とよばれる壁がつくられる。そのため光合成で作られたブドウ糖は葉に蓄積され、緑色の色素（クロロフィル）がアミノ酸に分解されて行く。赤く紅葉する葉では、ブドウ糖とクロロフィルが分解されてできたアミノ酸を材料にしてアントシアニンの一種の赤い色素・クリサンテミンが形成され、赤い色が浮かびあがる。黄色になる黄葉ではクロロフィルの他に、黄色い色素カロチノイドが存在していて、クロロフィルが壊れることで隠れていたカロチノイドの1種であるキサントフィル類が浮かび上がり黄色に見えるようになる。

4. 果実を求めて野鳥たちがやって来る。

森の中ではドングリを求めギャギャとうるさく飛びまわる鳥がいる。その鳥は大きなミヤマカケス。またその周りでアカゲラやカラ類なども静かに森中を飛びまわる姿も多く見られるようになった。

キタコブシやホオノキ、ツリバナ、アズキナシ、ナナカマド、カンボク、オオカメノキ、ミヤマガマズミなどの赤い果実やミズキ、キハダ、ヤマブドウなどの黒い果実、サルナシの緑色の果実、ミズナラ、クリの緑色から茶色の果実、ドイツトウヒの果実、アサダ、サワシバの果実などの樹木の果実、オオウバユリやマムシグサの赤い果実、などが観察でき野幌森林公園の秋を感じることができる。

秋のありがとう観察会（自然ふれあい交流館共催 コース：エゾユズリハ・大沢コース）

平成23年11月13日（日） 10:00～12:30

集合場所：大沢口 自然ふれあい交流館

参加費：無料、軍手、ゴミ袋（レジ袋可） ※道民カレッジ連携講座